

量産品質改善プログラムのお勧め

他社での成果例

企業名	成果金額	活動スタイル
A社	数10億円/年	事業部長方針に基づく事業部全体活動
B社	数億円/半年	担当部長の方針に基づく1部門の活動
C社	数億円/年	事業部長方針に基づく全事業所活動
D社	半年で赤字から黒字へ転換	専務指示に基づくProject活動

- ◆どの企業でも、コンサルティング費用の約10倍以上の成果を約1年であげています。
- ◆組織的活動(事業部全体)の方が、より大きな成果が出ます。
- ◆事業成果とあわせて、下記のOutputを出している企業も増えています。
改善できるプロ人材育成、組織力の強化、マネジメント力の強化

活用目的の例

量産品質改善の目的例：国内工場、中国工場でも対応可能です

工程内不良の低減、歩留まり向上、市場クレーム低減、検査コストの低減、検査能力の向上、部品不良の改善(仕入先)

間接部門への適用例：下記のようなテーマの実績もあります

品質情報システムの構築、営業情報システムの構築、海外部品調達へのしくみ改善、人事部門の勤怠処理の改善、等

- ◆当社のCost Managementプログラムを適用すると、何を改善すべきかが金額で明確になります。
- ◆貴社の方針管理とリンクさせて、各部門の年度重点課題解決を行うのも効果的な活用方法です。

プログラムの概要

目的の決定

下記の2通りの方法があります

- 1.当社のCost Managementプログラムを適用し、最も利益創出に効果のあるものを決める
 - 2.貴社の方針管理、TOP(部門長)方針に従い決める
- ◆いずれの方法でも、目標を明確に決めるのが大きい成果を出す秘訣です。
ex.工程内不良=現状の1/10, 市場クレーム=1/3, 等

テーマの選定

上記目標の内訳を分析し、テーマの選定を行います。

- 1.現状のデータの分析:機種別、現象別、工程別、等
- 2.大きい寄与率の部分をテーマ化:達成時期も明確に決めます
ex.* *製品の工程内不良低減、* *現象の工程内不良撲滅、* *工程の不良低減、等

各テーマの編成決定<例>

各テーマ毎に下記の者を決めます。

- *責任者:成果を出す責任者。進める環境整備、部門間調整、等を行います。
- *リーダー:実行責任者。メンバーを動かします。
- *メンバー:関連する部門からメンバーを選定します。

各テーマの実行・改善

基本的には問題解決ストーリーですが、下記の手法が多く使われています。

QC7つ道具(Q7), 新QC7つ道具(N7), Taguchi Methods, 多変量解析, QFD, TRIZ, FMEA/FTA

成果発表会、成果のまとめ

- ◆できるだけTOPに参加して頂き、成果発表会を行います。報酬を与えると改善にも拍車がかかります。
- ◆発表会に参加させて頂くことで、活動全体のまとめ・今後の課題・今後の活動のご提案も行っています。
- 上記を半年=1サイクルで行っている企業がほとんどです。
- 目的・テーマ選定・編成の決定を確実に行うことで、成果が大きくなります。

テーマの進め方と手法の関係

手法	Q7	N7	多変量解析	Taguchi Methods	TRIZ	FMEA/FTA
進め方						
テーマの目的, 目標達成時期	○					
現状調査	○	○	○	○	MT法	
改善対象の決定	○	○	○	○	MT法	
改善対象の現状分析	○		○	○	MT法	○
要因の把握	○		○	○	MT法	○
対策案出しと決定	○	○			○	○
対策実施, 効果確認	○				○	
目標達成度把握	○					

- ◆テーマにより使う手法も違ってきますが、上表から下記の手法は必須です。

Q7, N7, Taguchi Methods

- ◆目的を達成するための手法という使い方をします。手法の押し売りはしません。

